

南湖に放流したホンモロコ標識魚の追跡調査

太田 滋規

1. 目的

かつてホンモロコの主要な産卵場であった南湖は、現在ほとんど産卵が確認されなくなっている。そのため、産卵繁殖場から北湖までの連続性を確保した水草刈り取りおよび標識種苗放流を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。水産試験場ではこの事業で放流された種苗を追跡調査することにより、南湖から北湖への移動分布の把握と産卵状況および親魚来遊状況調査によりホンモロコ再生産を確認し、増殖促進効果を実証する。

2. 方法

- ①産卵状況確認調査：事業開始前の南湖での産卵状況を把握するため、春期（4/11～5/30）にほぼ毎週1回、下笠造成ヨシ帯を中心として、南湖でホンモロコがかつて産卵していた場所での産卵の有無を調査した。
- ②南湖での稚魚分布状況調査：下笠地先で標識放流された118万尾のホンモロコ稚魚（平均全長21.5mm）の分布を把握するため、6/13から8/6までの毎週、放流場所を中心にビームトロール網による採集調査を行った。また、放流場

所近辺のエリで採捕されたホンモロコ稚魚の標識調査を行った。

③琵琶湖北湖での標識魚分布調査：北湖における南湖標識放流魚の分布状況および混獲状況を明らかにするため、北湖での漁獲魚（刺網、沖曳網）の標識調査を行った。

3. 結果

- ①産卵状況確認調査：延べ7日間の調査の結果、北湖の大津市小野地先、守山市今浜町地先までは産卵が確認されたが、南湖ではホンモロコの産卵は確認できなかった（図1）。
- ②南湖での稚魚分布状況調査：ホンモロコ稚魚は76尾採集され、その96%が南湖放流標識魚であった。それらは放流場所付近で、放流後2週間以内に採捕したものがほとんどで、移動状況は把握できなかった（図1）。また、放流場所近辺のエリで7月上旬に採捕された177尾のホンモロコ稚魚は無標識魚が64%を占めたが、周辺で産卵が確認されていなかったことから、水田育成放流魚と思われた。
- ③琵琶湖北湖での標識魚分布調査：秋期（10/11～11/13）の刺網漁獲魚を2,770尾調査したところ、南湖放流標識魚が17尾再捕された。また、冬期（12/4～2/1）の沖曳網漁獲魚を5,105尾調査したところ、南湖放流標識魚が北湖一円で31尾採捕された（図2）。



図1. 産卵状況確認調査と南湖での稚魚分布調査の調査地点

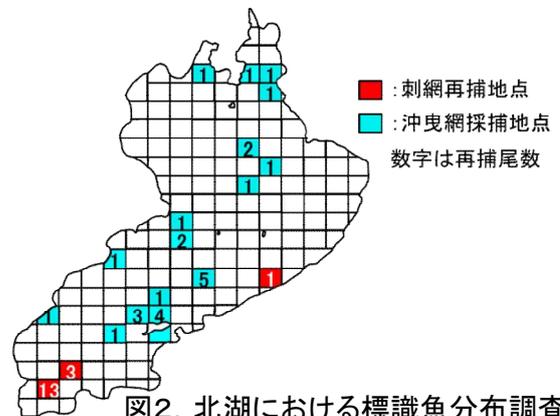


図2. 北湖における標識魚分布調査の再捕地点と再捕尾数